No. 185

長文読解 ULTIMATE CHEAT SHEET

試験時間配分と解く順番の戦略

英語の試験は時間との勝負。配分の決め方、解く順番、撤退ライン、見直しの使い方を先に決めておけば、本番で崩れない。

Web版はこちら

ここだけ3行

1 時間は「残り何分」でなく「終了時刻」で管理

2 1問に粘る上限を決め、超えたら仮マークで次へ

3 見直しの時間は最初に引き、マーク位置の確認に使う

◆ 時間配分の決め方5ステップ 5

配分は「なんとなく」ではなく、配点と語数から計算して作る。

① **形式と配点を調べる**
志望校の過去問で、大問の数・形式・配点（公表されていれば）・語数を一覧にする。年度で形式が変わっていないかも確認。

② **見直し時間を先に引く**
試験時間から見直し（マーク式なら5〜10分程度）を先に差し引く。残りが解答に使える時間。

③ **配点の割合で割る**
使える時間×その大問の配点の割合＝目安時間。配点が分からなければ設問数の割合で代用する。

④ **語数で読む時間を確かめる**
本文の語数÷自分のWPM（1分に読める語数）＋設問1問あたり1分前後。目安時間に収まらなければ、他の大問から時間を移す。

⑤ **過去問で試して固定する**
本番と同じ時間で解き、大問ごとにかかった時間を記録。ずれた所を直して、本番前に配分と順番を固定する。

◆ 配分の計算例（架空の私大 90分）

配点の割合で割り、語数と形式で調整した一例。開始10:00として終了時刻を書く。

大問（配点）	目安	解く順	終了時刻
第4問 文法・語彙（15）	8分	①	10:08
第3問 会話文（15）	10分	②	10:18
第1問 長文A 約800語（30）	25分	③	10:43
第5問 英作文（15）	17分	④	11:00
第2問 長文B 約600語（25）	20分	⑤	11:20
見直し	10分	⑥	11:30

目から鱗

時刻で管理すると延びない：「あと35分」は計算のたびに頭を使い、少しずつ延びる。問題用紙の大問の横に「10:43」と**終了時刻を書いておけば、時計を見た瞬間に遅れが分かる**。遅れたら次の大問で取り返すのではなく、今の大問で撤退する。

◆ 共通テスト リーディングの配分例（80分）

原田英語の時間配分記事の標準形。撤退ライン＝その大問で粘ってよい上限。

大問	目安	累計	撤退ライン
第1問	3分	3分	4分
第2問	5分	8分	7分
第3問	6分	14分	8分
第4問	8分	22分	10分
第5問	11分	33分	13分
第6問	10分	43分	12分
第7問	13分	56分	15分
第8問	16分	72分	残り3分で全マーク
見直し	8分	80分	マーク位置の確認

◆ 解く順番の判断基準 6

「どれから解くか」は本番ではなく、練習のうちに決めておく。

☐ 1 **短く確実な知識問題は先に**
文法・語彙・発音などは1問数十秒で終わり、時間が読みやすい。先に片づけて、残りを長文に回す。

☐ 2 **配点が高く得意な大問を優先**
時間切れになっても、取れる所を取り終えていれば被害が小さい。配点÷時間の「効率」で並べる。

☐ 3 **記述は白紙にしない**
英作文・和訳は部分点がもらえることが多い。最後に回して白紙になるのが最悪。時間を先に確保し、途中でも書き切る。

☐ **4 重い問題は最後にしない**
時間がかかる長文を最後に置くなら、スキミングで解ける設問から取る準備をしておく。

☐ **5 順番を変えるならマークに注意**
飛ばして解くとマーク欄のずれが起きやすい。順番を変える作戦は、模試で何度か練習してから使う。

☐ **6 難しい大問に動揺しない**
自分に難しい問題は他の受験生にも難しいことが多い（苦手分野のこともある）。どちらにせよ撤退ラインで切り、取れる大問の時間を守る。

◆ 撤退ラインの決め方 5

☐ **1 上限は目安より少し長く**
目安ぴったりで切ると、あと1問で解ける所まで捨てることになる。目安＋1〜3分を上限にして、超えたら必ず次へ。

☐ **2 1問2分ルール**
1問に2分以上悩んだら、最有力の選択肢に仮マークして先へ進む。印をつけて、見直しの時間に戻る。

☐ **3 マーク式は空欄を作らない**
空欄は確実に0点。分からなくても、2択まで絞った方か最有力をマークしておく。

☐ **4 捨て問のサイン**
本文に根拠の場所が見つからない、選択肢2つが本文の解釈しだいで決まる。こうした問題は時間をかけても正答率が上がりにくい。

☐ **5 撤退したら引きずらない**
前の問題を考えながら次を読むと、両方崩れる。印をつけたら頭を切り替える。

◆ 見直しの使い方 4

☐ **1 まずマーク位置の確認**
番号が1つずれると、気づくまで後ろが全部ずれる。マーク式の見直しは、正誤の再検討より先にマーク位置を確かめる。

☐ **2 印をつけた問題だけ戻る**
全部を見直す時間はない。解く時に「迷った」印をつけた問題から順に見る。

☐ **3 記述は形式ミスを潰す**
主語と動詞の一致、三単現の -s、時制、冠詞、スペル、指定語数・字数。内容より先に、確実に防げる減点を消す。

☐ **4 根拠があれば答えを変える**
見直しで本文に新しい根拠を見つけた、設問条件の読み落としに気づいた、などはっきりした理由があれば変えてよい。なんとなくの変更はせず、根拠の有無で決める。

なぜ効く？
「最初の答えを変えるな」は本当？ 大学の試験の答案を調べた研究では、答えを変えた場合、誤→正のほうが正→誤より多かった。それでも人は「変えて失敗した」記憶を強く覚えているため、最初の直感を信じすぎる（Kruger, Wirtz & Miller 2005「first instinct fallacy」）。**変えるかどうかは直感ではなく本文の根拠で決める。**

◆ 作戦を見直す節目は3回 3

大問ごとの終了時刻の確認に加え、作戦を切り替える節目を決めておく。何度も時計を見ると集中が切れる。

① **前半の終わり**
共通テストなら開始22分ごろに第5問に入っているか。遅れていたら第5問以降の撤退ラインを厳しくする。

② **後半の入口**
開始43分ごろに第7問に入っているか。ここで遅れていたら、最後の大問は解ける設問から取る作戦に切り替える。

③ **最後の確認**
残り8分ほど（遅くとも残り3分）で全マークが埋まっているか。埋まっていなければ、空欄に仮マークを入れてから見直しへ。

◆ 時間配分のありがちな失敗 5

☐ ~~× 第1問から全部を同じ丁寧さで解く~~
○ **大問ごとに終了時刻を決めて守る**
前半で使いすぎると、配点の高い後半が時間切れになる

☐ ~~× 本番で初めて解く順番を変える~~
○ **練習で固めた順番どおりに解く**
慣れない順番はマークずれと焦りを生む

☐ ~~× 見直しの時間を取らない~~
○ **最初に5〜10分を確保しておく**
マーク位置のずれ1つで大量に失点する

☐ ~~× 英作文を最後に回して白紙~~
○ **記述の時間を先に確保する**
記述は部分点があり、白紙が最も損

☐ ~~× 分からない1問を考え続ける~~
○ **2分で仮マークして次へ**
1問より後の大問全体のほうが配点が大きい

◆ 確認テスト

1 使える時間70分、配点が全体の30%の大問の目安時間は？
a 21分　b 7分　c 14分　d 30分

2 600語の長文、WPM100、設問5問。読む時間＋設問の目安は？
a 約20分　b 約6分　c 約11分　d 約5分

3 マーク式の見直しで最初にすべきことは？
a マーク位置の確認　b 全問の解き直し　c 第1問の再読
d 答えを直感で変える

4 見直しで答えを変えてよいのは？
a 同じ記号が続いた時　b 変えてはいけない
c なんとなく不安な時　d はっきりした根拠を見つけた時

◆ 解答

1 21分 70×0.3＝21
2 約11分 600÷100＝6分＋5問×1分
3 マーク位置の確認 1つずれると後ろが全部ずれる
4 はっきりした根拠を見つけた時 根拠で決める

参考資料 原田英語「【共通テスト英語 時間配分】2027年度完全版！リーディング80分＋リスニング60分を1分単位で設計する全技術」／Kruger, J., Wirtz, D. & Miller, D. T. (2005). Counterfactual thinking and the first instinct fallacy. Journal of Personality and Social Psychology, 88(5)